

かほく市議会 市民文教常任委員会 視察報告

【研修日程】

平成29年10月3日（火）～5日（木）

【視察研修先及び内容】

1. 宮城県多賀城市 : 多賀城図書館の管理運営について
2. 宮城県石巻市 : 父子手帳、イクメン事業について

【参加者】

市民文教常任委員長	竹内	幹雄
副委員長	丸井	一範
委員	別宗	明敏
	猪村	博靖
	寺内	照雄
	野田	稔彦
	塚本	佐和子
議長	坂井	正靱
随行	森	益啓



多賀城市役所



石巻市役所

多賀城図書館の管理運営について (宮城県多賀城市)

【概況】

- ・ 宮城県のほぼ中央、太平洋岸に位置し、周辺には仙台市や漁港で有名な塩竈市、日本三景で有名な松島町などがあり、仙台市の中心部から 20 分の時間距離で、仙台駅にも直通でアクセスできる交通利便性の高い地域であり、人口約 6 万 2 千人、面積 19.69 平方キロメートルの市である。
- ・ 仙台市のベッドタウンとして発展したことから、中心部がはっきりしない「へそ」の無いまちとして課題を抱えていた。
- ・ そこで、多賀城市では、「東北随一の文化交流拠点づくり」の一環として、新しく整備される駅北口広場に隣接した敷地に、復興のシンボルとなる施設を設置した。

【多賀城図書館】

- ・ 新しい図書館は 2016 年 3 月に移転オープンし、現職員体制での図書館サービスの運営は困難なことから、高いサービスの提供とコストの削減、スピード感と柔軟性のある対応が出来る「指定管理者制度」を導入し、運営することにした。
- ・ 図書館は、人材と市民生活を第一にしている教育施設であり、文化センター、史跡や東北学院大学などの教育文化の伝統的な施設があるため、東北一の文化交流拠点と位置付けし、コンセプトは、「家族が絵になる図書館」、言うなれば、「図書館は家であり、成長を見守るところ」「癒しであり、自分の空間が確保されているところ」であり、そこへ行けば、いつも何かやっていることから、人が集まる滞在型の施設となっていた。
- ・ 建物は 3 階建てで、上の階になるほど静かになり、1 階はリビング、2 階は書斎のような空間、3 階は専門書などがある学習の場をイメージしている。また、図書館と隣接した書店やコンビニエンスストア、コーヒーショップがあり、1 階と 2 階はそれぞれの施設が図書館と接続されており、利用者の利便性に配慮されたつくりで、視察した時は、平日の日中にもかかわらず、多くの人を訪れていた。
- ・ 図書館の年間延べ来館者数は、約 120 万人。図書貸し出し冊数は、66 万冊となっており、市民利用率が 5 割を超え、アンケート結果によると総合満足度は、79%を占め大きな効果があった。
- ・ 図書館サービスとして、「タブレット検索機の配置」「タブレット端末の貸出」「WiFi 環境の充実」「キッズライブラリー、テラスの設置」「宅配返却」「読書通帳」を実施している。
- ・ 施設の課題としては、「座席数が足りない」「蔵書数が足りない」とのことであったが、「多くの利用者があるからこそ」と感じた。

公共施設の民営化については賛否両論があり、すぐに民営化というわけにはいかないが、かほく市の図書館でもすぐに取り組める、実行できるものがあり、執行部に提案したい。

イクメン事業、父子手帳について (宮城県石巻市)

【概況】

- ・ 北上川の河口に位置し、宮城県北東部地域を代表する風光明媚な都市で、漁業のまちとして栄え、石巻工業港が開港し工業都市としても発展し、人口約14万8千人、面積550平方キロメートルである。
- ・ 東日本大震災で襲来した巨大津波は防潮堤を破壊し、多くの人命を奪い、住宅や道路、港など多くの財産を失った。
- ・ 多くの人たちの支援により、復興を行っているところであり、「生きる力」となるコミュニティの大切さを学び、市民が一丸となった復旧・再生・発展へ向かって歩みだしている。

【イクメン事業】

- ・ これからの若い世代が家族を形成し、子育ての喜びを実感でき、子どもたちにとってもより良い社会の実現を目指し、結婚・妊娠・出産・育児における課題解決に向け、市役所職員による「少子化対策プロジェクト」を設置した。
- ・ その施策のひとつとして、市民アンケートでは、育児は誰が行うかとの問いに対し「主に父親」との回答が著しく低い結果であったことから、「男性の育児参加へのキッカケをつくる必要がある」と考え、残業をせずに早く帰った日は、積極的な育児参加をめざすための「イクメン講習会」に参加してもらう「子育てパパ育成事業」を計画したとのことであった。
- ・ 昨年行ったイクメン講習会では、民間企業の従業員、一般市民、市職員を対象に助産師による講演を行い、内容は、パパの育児参加の大切さを感じてもらい、妊婦ジャケットを着用し、妊産婦の大変さを体験するものであった。
- ・ 参加者からは「改めて家族の大切さを認識した」、「子育て、家事を率先し行っていく」との感想をいただいたとのことであった。

イクメン事業については、企業の理解も不可欠であるという職員の感想を聞き、個人の

意識改革はもとより、社会全体が男性の育児参加という認識が必要であると感じた。

【父子手帳】

- ・ 石巻市では、少子化対策として、母親が安心して子育てできるよう父親の育児参加を促すために、市独自の父子手帳を国の交付金を活用し作成した。
- ・ 平成 28 年度から、バインダー式の父子手帳を母子健康手帳と同時に約 800 冊、その他に約 500 冊、合計約 1300 冊を配布した。
- ・ 父子手帳の交付は宮城県内では初めてであり、地元の新聞等に紹介された。

育児を女性だけでなく、男性も参加していくことが時代の流れであり、大変重要であると感じた研修であった。

かほく市では、まだイクメンについて、イベントなどの啓蒙活動のみであり、今後もイベントなどを通じ、子育て世代の支援、負担軽減を図っていきたい。